# 6 草津市教育委員会(滋賀県)

#### 概要

■規模

幼稚園	10 園
小学校	13 校
中学校	6校

- ■周辺状況・特徴
  - 草津市は、滋賀県の南東部に位置し、南北12km、 東西 9km とやや南北に広がった地域からなる。
  - □ この地域は、江戸時代から東海道と中山道が接す る宿場町として栄え、近年は、JR東海道本線、国 道 1号線、名神高速道路など日本を東西に結ぶ交 通網を有して、京都や大阪のベットタウンとして人 口増が目立っている。

◎ 滋賀県が大学等の誘致を奨励しているため、学園都市 としての役割も担っている。



学校安全対策評価システム」画面

# 取組のきっかけ

- 学校侵入事件が多発している中、犯罪被害に対 する安全対策が重要であるとともに、交通事故、 風水害、地震等の自然災害などへの対策も不可欠 となっている。
- 学校に関わる安全対策は、関係者が有機的に連 携しつつ実施した対策を評価・改善する必要があ る。そのため、多様な対策を評価し、必要に応じて 対策例を確認できる「学校安全対策評価システム」 を策定し、域内の各学校において運用している。

## 検討体制の設置

- 教育委員会に「草津市学校安全対策評価システ ム策定委員会」を設置した。(平成16年9月)
- 実施体制は学校(小学校長、中学校長) PTA 連 絡協議会、自治連合会、教育委員会、警察、消防、 大学 (兵庫教育大学)などの関係者から構成され ている。(委員10名、事務局7名)
- 学校安全対策の専門家(兵庫教育大学教授)と の共同研究(調査及びシステム構築等、市の委託 調査)として、独自のマニュアル作成に取り組む こととなった。

● 学校教職員(管理職、一般教員)や保護者の考 えを把握し、評価システムに反映させるために事 前調査を実施した。その上で、調査結果等を踏ま え策定委員会においてシステムの内容や形式等に ついて検討した。

### 検討体制メンバー

兵庫教育大学学校教育学部教授 草津栗東医師会 草津市学校医部代表 自治連合会代表 草津警察署 生活安全課長 草津警察署 地域課長 湖南広域行政組合 西消防署長 草津市保健部会・小学校長 草津市保健部会・中学校長 草津市 PTA 連絡協議会会長 草津市 PTA 連絡協議会副会長 事務局として、草津市教育委員会

# 現状の把握と課題の抽出

● 文部科学省が示した「幼児児童生徒の安全確保及 び学校の安全管理についての点検項目(例)」を参考 にしつつ、各学校において、独自に対応マニュアル やチェックリストを作成し、主体的に点検等を実施 している。

- 各学校においてこれらの点検等を実施した上で、「学校安全対策評価システム」によりコンピュータ上で点検作業を行い、結果を集計・評価している。
- 学期ごとに本システムによる評価を行い、学期 末(年3回)に教育委員会に評価結果を提出する。
- さらに、「学校・園の安全管理と子供の安全確保 強調月間」である6月には、 危機管理マニュア ルの再点検、 教職員の危機管理意識の高揚、 緊急時に備えた訓練・講習会の実施、 登下校時 の安全指導、 地域や保護者、子どもへの注意喚 起等の取組を促す等、「学校・園の安全管理点検」 を各校園で実施している。

## マニュアル・チェックリストの活用

- 防犯を中心として、自然災害による被害の防止 や軽減についても取り上げ、怪我の防止、交通安 全に関する評価項目を設定している。
- 文部科学省が示した安全対策評価項目を基本と しつつ、草津市の実態に合わせて改変し、使用し ている。
- 「学校安全対策評価システム」では、管理職用 評価項目と一般教員用(安全主任等用)評価項目 を設定している。
- 評価項目の構成は、 日常の安全確保、 緊急 時の安全確保、 自然災害による被害の防止、 連絡通報、応急手当等からなる。

#### 項目例

(学校設備面における安全確保:管理職用)

校門、フェンス、外灯(防犯ライト等)、 校舎の窓・出入口等の破損、錠の状況の点 検・補修を行っている。

警報装置(警報ベル、ブザー等)、防犯 監視システム、通報機器(校内緊急通話シ ステム、警察や警備会社との連絡システム 等)等を設置する場合、作動状況の点検、 警察や警備会社等との連絡体制の確認を 行っている。

死角の原因となる立木等の障害物の有無

自転車置場、駐車場や隣接建物からの侵入の可能性について確認を行っている。 児童生徒の落下防止の対策をとっている。 必要な安全対策や施設設備の補修を申 請や要求をしている。

#### 項目例

自然災害による被害の防止、避難関連事項 管理職用) 避難経路、防火施設・設備等の周辺における障 害物の有無を確認し、必要な場合には撤去してい る。

防火用水、消火器、消火栓、防火シャッター、 防火用扉などの作動性を確認したり、避難器具を 点検したりしている。

自動火災報知設備や緊急放送設備などの作動性 を確認している。 など

■ 実施状況の該当欄をチェックするとともに、実施状況、成果、未実施の場合の理由や事情などの特記事項を記入する。



次に、実施状況を踏まえて、「今後の安全対策計画等」を記入する。記入に当たっては、評価システム内にて対策例を紹介し、各学校が参考できるようにしている。



# 改善措置の実施

- 年3回の報告の際に「今後の安全対策計画等」に 教育委員会の支援が必要な事項についても記入し、 教育委員会(学務課)に報告している。修繕等が必 要な場合は、学務課から施設担当である教育総務課 に連絡し対応している。
- 施設面での改善については、特定の学校だけの改善を図るのではなく、全校共通の視点で見た上で改善を図る必要があることから、フェンスや電気錠の設置など、全校一斉に対策を講じてきている。
- 「防犯・防災」のための対策は緊急的に措置する ものであり、他の対策よりも優先的に措置している。

#### これまでの草津市学校安全対策

#### (広域的対策)

小中学生全員に防犯ブザーを配布

施設面 特に道路に接する部分のフェンスを新設 修繕 県警に直通する緊急通報システムを小中学校に配備 平成 16 年度末までに全校園に きすまた」及び ネット 銃 を配備

・学校安全対策ボランティア巡回事業」を各小学校区に おいて実施

安全パドロールによる学校巡回

門扉に、電気錠を設置 ほか

## 点検 改善の取組の周知、見直し

- 本システムを市内の学校で共有するため、 CD-ROMを各学校に配布し、管理職等に周知している。点検結果はコンピュータにおいて保存し、関係者間において情報を共有できるようにしている。
- 評価システムを普及するために研修会を実施し、 周知している。
- 各学校の管理職等から、点検項目や評価基準等 についての見直しに関する意見を聴取しており、 今後、システムの見直しにつなげることとしている。

## 今後の課題

- 学校の実情や職員の意識の差などがあるため、 一律に評価できないことをどう考えていくかが課題である。
- 現在は、学校敷地内の防犯対策から、通学路等の学校敷地外の防犯対策に視点が移っている。今後、通学路等における評価システムをどう構築していくかが課題である。
- 項目によって点検評価を行う時期にメリハリを つけるなど今後の改善を図ることが課題である。

## 研究会コメント

- 市独自の評価システムの構築の試みであり、市町村又は都道府県の教育委員会が主体的に取り組むことに大きな意義がある。
- 外部評価の手段にもなりるが、地域・学校の状況が異なることから、一律に評価 Uこ4 面もみられる
- 全学校の一斉点検を通して、関係者の主体性が 高まり、学校間での情報交流も舌発化している。
- 学期ごとの総点検は、関係者の安全意識の持続に効果が期待できる。その反面、マンネリ化するおそれもあることから、年1回の点検項目と学期ごとの点検項目を分けるなどの工夫も重要と考えられる。
- 現段階の当該システムは、まだ改良の余地がある。今後の試行とバージョンアップに期待したい。